

平成 30 年度大規模災害協定に基づく連絡会(南薩ブロック)議事録

場 所 : 南薩地域振興局 本館 3 階第 2・3 会議室

期 日 : 平成 30 年 6 月 6 日 (水) 13:30~14:30

出席者 : 【南薩地域振興局】 7 名

建設部長 (川原智明)

土木建築課長 (城戸清志)

技術補佐 (若元隆治)

技術主査 (川畑利仁)

河川港湾課長 (小川和久)

技術調整係長 (加治屋勝行)

土木技師 (猪八重 巧)

【(公社)鹿児島県測量設計業協会】 9 名

会 長 (安永幸信) 副会長 (坪内己喜男) 理事 (塚脇 伸)

連絡責任者(正) (株)南日本技術コンサルタント(谷口)

連絡責任者(副) (株)岩元測量設計 (吉留)

地元業者 (株)日峰測地 (室屋)

三州技術コンサルタント(株) (村山)

アイ技研 (株) (宮下)

(株)大進 (中野)

【(公社)鹿児島県地質調査業協会】 9 名

理事長 (宇都忠良) 副理事長 (岩田秀樹) 理事 (今村 貢) 理事 (川邊信也)

理 事 (田淵 彰) 支援本部役員 (梶原景友) 支援本部役員 (杉元健一)

南薩ブロック班長 アジアテック(株)(肥後)

南薩ブロック副班長 (株)第一地研開発(池田)

会議資料 : 【南薩地域振興局】

資料 1 会次第

資料 2 出席者名簿

資料 3 座席表

資料 4 大規模災害時における被災状況調査に係る支援協力に関する連絡体制

資料 5 災害支援協力のフロー図

資料 6 管内の公共土木施設概要

参考資料

①大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定書 (写し)

②大規模災害時における地質調査等の支援協力に関する協定書 (写し)

【(公社)鹿児島県測量設計業協会】

- 資料 1 大規模災害時における被害状況調査の応援支援協力に関する連絡体系図
- 資料 2 災害支援協力のフロー図
- 資料 3 大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定(経緯)
- 資料 4 大規模災害時における被害状況調査の支援協力

【(公社)鹿児島県地質調査業協会】

- 資料 1 大規模災害時における地質調査等の支援協力に関する協定経緯等
- 資料 2 大規模災害時における地質調査等の支援協力要請提出物様式
- 資料 3 大規模災害時における地質調査業協会の緊急連絡先・支援本部連絡体系図

議事録（司会・進行：技術調整係長 加治屋勝行）

1. 挨拶（13：30）

南薩地域振興局	建設部長	川原 智明
(公社)鹿児島県測量設計業協会	会長	安永 幸信
(公社)鹿児島県地質調査業協会	理事長	宇都 忠良

2. 平成 30 年度の連絡体制について(振興局より)

資料 4,5 に基づき連絡体制等の説明

(※資料 4 については個人情報が含まれているため取扱に十分注意すること)

3. 管内における公共土木施設等の状況について(振興局より)

資料 6 に基づき施設状況等の説明

4. 大規模災害支援協力について(測量設計業協会より)

資料 1～4 に基づき支援協力等の説明

5. 大規模災害支援協力について(地質調査業協会より)

資料 1～3 に基づき支援協力等の説明

6. 意見交換（測量設計業協会のみ）

【振興局より】

大規模災害が発生し、現地調査についてドローンを活用した写真撮影は可能か？

【測量設計業協会より】

可能です。被災前・被災後の写真があれば、土量を算出することも可能です。
ただし、各社のタイプによるが万能ではない・バッテリーに制限がある（20分程度）・雨に弱い・
強風に弱い・操縦操作の技術習得が必要不可欠（誰でも操縦できない）などの問題点があります。

また、原則ボランティアと認識しておりますので、どのような手法を用いて現地調査を実施するかについては、各社の判断と考えます。

【振興局より】

目視で確認するよりも、ドローンを活用した方が良い場所もある。
ドローンを活用するためには、費用が伴うので技術管理室（徳留室長）と協議を行い、今後の検討課題としていただきたい。



連絡会議風景